

10月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比^{*}DI値の動き

30年10月のDI値は8指標中、7指標が上昇。特に「景況」「売上高」「収益状況」の主要3指標においては2桁の大幅な上昇。「販売価格」のみ下落となった。

2. 県内中小企業の景況の現状

板金工事業では仕事の受注が順調であり、家電製品小売業においても引き続き買換え需要が堅調であった様子。また木材業・印刷業・自動車販売製造業においても少しずつ動きが活発になってきたとの明るい報告も寄せられた。

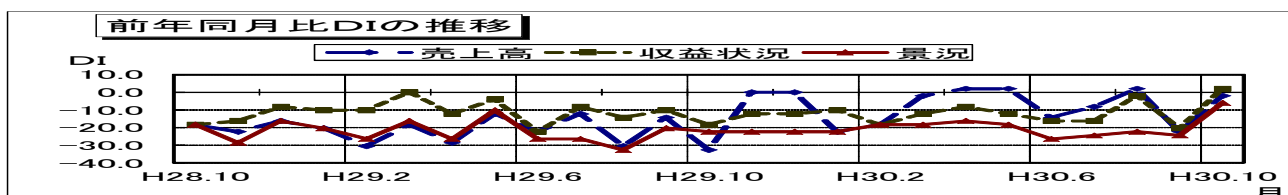
一方、慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇により、商品への価格転嫁が困難であることを嘆く声も寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、米国に端を発する貿易摩擦懸念や、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H29 10月	11月	12月	H30 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	前月比 増減
景況	-22.4	-22.4	-22.4	-22.4	-18.4	-18.4	-16.3	-18.4	-26.5	-24.5	-22.4	-24.5	-6.1	18.4
売上高	-32.7	0.0	0.0	-22.4	-18.4	-2.0	2.0	2.0	-14.3	-8.2	2.0	-22.4	-2.0	20.4
収益状況	-18.4	-12.2	-12.2	-10.2	-18.4	-12.2	-8.2	-12.2	-16.3	-16.3	-2.0	-20.4	2.0	22.4
販売価格	10.2	16.3	12.2	20.4	8.2	18.4	10.2	4.1	4.1	6.1	8.2	10.2	6.1	-4.1
取引条件	-4.1	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-2.0	-2.0	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	4.1
資金繰り	-10.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-6.1	0.0	-4.1	-8.2	-14.3	-12.2	-12.2	-2.0	10.2
設備操業度	-6.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-6.1	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0	8.2
雇用人員	-18.4	-12.2	-14.3	-14.3	-18.4	-20.4	-18.4	-16.3	-14.3	-14.3	-14.3	-14.3	-8.2	6.1

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



[景況関連の報告]

【製造業】

<食料品>

1. 味噌・県内の前年同月比、みその生産量は94.4%、出荷量は97.4%となった。前月比では生産量100.8%、出荷量98.3%で推移し、横這いの状態である。ちなみに全国の味噌の状況（8月）は、前年同月比は生産量110.0%、出荷量98.6%となっている。

<繊維・同製品>

2. 縫製・相変わらず、雇用情勢の悪化が顕著であり、中小企業の人手不足が深刻化しつつある。特に、優良人材（幹部候補生）の獲得が大きな課題である。売上、収益については、秋冬については、夏季より改善傾向である。しかしながら、市場の頭打ちの感は拭えず、特に人口減少とする原因が大きく、将来の景気回復への見通しは引き続き厳しい。

3. 縫製・長引く市場の低迷。

<木材・木製品>

4. 製材・一進一退の状況で先行不透明である。
5. 製材・依然として荷動きが悪い状況が続いている。小口の注文に終始するなど、売上高が上がらないところもある。
6. 木材・依然、原木出材量は少なく原木価格は強含んでいるが各製材所、合板等買気は旺盛である。しかし製品市況が弱含みの中、全般に体制変わらず経営は厳しく推移している。
7. 木材・やっと10月になり極めてほんの少しだが、景気が良い方向に動くようになってきているが、それも流動的ではっきりと判断しにくい程である。

<印刷>

8. 印刷・10月は他の月に比べてイベント関係が多いものの売上増加には直結していない。さらに燃料費や材料費の値上げ転嫁も厳しい状況が続いている。変化をチャンス機会と捉え、ニーズ変化への対応、提案力の強化を進めていかなければならない。どんどん厳しくなっていく経営環境への対応と改善への取り組みが求められる。
9. 印刷・下期に入ったことにより動きが若干活発になったようだ。しかし受注は前年並みになったものの収益性は今一つ改善しない。やはり運賃の上昇やガソリン価格の高騰が響いているように思う。年末に向け受注が改善されることを期待している。

<窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・10月は昨年同月に比べて約10%近く増加。要因は、特需工事によるものが大きく、その他の出荷は昨年度より若干減少気味であるが、7月の豪雨による災害関連工事が11月中旬より発注される予定であり、年度内に多少出荷の上積みがあるかもしれない。
11. 生 コ ン・9月の出荷数量は、対前年同月比10%の減少となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して官民での新規新設工事が少なかったことが影響している。今後の出荷数量については、秋口からの新規工事受注が見込まれ、数量的には前年並みを予想している。販売価格については、価格見直しにより上昇したが、原材料費が上がり売上減少に伴い、収益は悪化傾向となっている。

<鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はないものの、一部には売上、設備操業度の上向き傾向や、引き合い増の動きが見られる。引き続き、原材料価格の上昇、人材の確保にも苦慮しており、依然、景気に対する先行き不透明感が拭えないところである。
13. ステンレス・国内外ともに目立った大きな変化は無い。部品調達では一部で納期遅れ等もあり業種によっては高負荷な状態も見受けられる。海外情勢による原油価格や為替の変動などによる影響も懸念される。

<一般機器>

14. 機 械 金 属・全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。ただ、一部に設備投資の動きもあり、業況の好転が見られるものの、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、引き続き、原材料価格その他の経費の増加、従業員の確保難などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸売業>

15. 食 糧 卸・作付減少、予想以上の作況の悪さにより、供給不足感が市場に現れ始めた。

<小売業>

16. ショッピングセンター・売上高は全店計87.3%(既存店88.6%)、客数は87.4%(88.4%)だった。今月は大変悪かった。今年に入り前年対比100%を超えた月はなかったが、90%を割った月もなかった。業種別で見ると一番悪かったのは衣料品だ。大雑把な分析ですが月別の平均気温が、昨年9月24.1℃→10月18.6℃に対し、今年は9月24.1℃→10月19.3℃と変化している。こじつけになるかも知れないが、気温の緩やかな変化が冬物(防寒)衣料の売上を抑えたという見方が出来ないこともない。また食品においては、気温の下がり始める9月から鍋料理が増え、気温17~18℃くらいから鍋出現率が急に上昇するが、今年は気温が緩やかであったため、肉や葉物などの鍋食材の売上が悪かったのかも知れない。

17. 電気機器・9月と同様に買換中心の動きになり、エアコン、LED等節電型商品は順調な動きであり、4Kチューナ内蔵型TV及びチューナの販売も少しずつ伸びてきている。
18. 畳小売業・好天が続き、一般家庭の表替や、新築の現場も順調に納品ができた。メーカーの欠品が一部あり、納期がギリギリのところもあったが、おおむね対応ができた。11月の見積りも入ってきているところも多い。
19. プロパンガス・先月に引き続き、消費機器の交換期限が迫っているので、期限切れの無いよう、順次交換を行い、保安点検に努める。

<商店街>

20. 徳島市・1店舗が移転（転出）し組合員数が減少（本店に統合）。コンビニが商店街内の新しい場所に移転オープン（売場面積が広がる）。
21. 徳島市・秋雨前線・台風と相次ぐ悪天候により秋物の売れ行きがひどかったが、後半やっと良くなり先行き少し明るくなり、リピートのお客様も多く、秋後半に期待ができそうである。
22. 阿南市・駅前の空店舗が解体を始めた。かなりの広さの空き地になるので、どう利用されるかで影響があると思う。

<サービス業>

23. 土木建築業・平成30年度業務件数は29年度同様に受注。当該業務は1年間で、年度初めの4・5・6月 年度中後期の11・12・1月に忙しい。8月、9月は工事、業務等の発注も7割がた終わり、落ち着いている 去年度とさほど変わらない。30年度の懸案箇所を抽出し、補正予算の根拠資料を9月から10月はじめに作成し、局へのヒアリング資料作成で9月後期から各課とも忙しくなっている。9月は台風が多く接近上陸したので、道路、河川において、応援体制、特別巡視に担当技術者が夜間、休日に出勤しており、残業代等が多く必要、（官側は変更対応がなし 3日連続の場合のみ協議し、人件費の変更増額となる。）
24. 自動車販売整備業・登録自動車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比10.6%の1,361台、中古車は11.2%の448台、合計では10.7%の1,809台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比17.5%の1,186台、中古車8.4%の401台、合計は15.1%の1,587台である。登録自動車（普通車）・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比12.7%の3,396台と増加。新車の販売台数などの売上高は概ね例年並みの推移だが、対前年比でいえば12.7%増。特に軽自動車は15%増で、過去5年間では最も多い。車検等のサービスによる収益状況は登録車が約4%減に対して、軽自動車は約5%増。
25. 旅行業・10月は特に変わったことはなかったようだが、全体に動きが鈍いようだ。
26. ビル管理・特に大きな変化はない。ただ最近、取引条件が変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・654円→H30年・766円）。今月（10月）から新規改定額が適用されることになるので、これに伴うダメージが現れてくると思われる。

<建設業>

- 27. 建設業・徳島県県土整備部の発注工事は、9月末現在、請負額で対前年比1.7倍、件数で1.4倍となっている。下期の工事量が懸念される。補正予算に期待する。
- 28. 電気工事業・新設住宅口数は131件であり、対前年比49.8%と減少した。
- 29. 板金工事業・順調に仕事が続き手間不足の状態のようだ。

<運輸業>

- 30. 貨物運送業・一般貨物輸送は、例年並みに推移。ただ、軽油単価が国際的な要因で前月比4円強の値上がりとなり26年10月の水準まで上昇、運賃の値上げ転嫁が進まないなか、利益率低下の要因で今後の対応に迫られている。
- 31. 貨物運送業・燃料価格が上がり続けており、事業者はコストアップに悩まされている。9月の天候の影響を受け、青果物は不調である。